

目次

はしがき……………秋山 虔……………一

研究篇

源氏絵に描かれた男女の比率について……………岩坪 健……………七

——土佐派を中心に——

与謝野源氏の成立をめぐって……………河添 房江……………三七

——『新譯源氏物語』から『新新譯源氏物語』へ——

「物のあはれ」と宣長の自他意識……………杉田 昌彦……………七

——『思いやる心』をめぐって——

江戸詩歌における「夕顔」卷撰取……………鈴木 健一編……………九

『源氏物語』と『日本文学全集』……………田坂 憲二……………一四三

——戦後『源氏物語』享受史二面——

「蔵人より冠たまはる」……………今野鈴代……………二七

— 叙爵時年齢の考察 —

源氏物語と新古今和歌……………渡部泰明……………二〇三

『仙源抄』の位置……………吉森佳奈子……………二五九

資料篇

源氏歌詞少々（解題・翻字）……………高田信敬……………二六一

研究篇

はじめに

源氏物語を絵画化した源氏絵という点、何がイメージされるであろうか。たとえば現代の源氏絵とも言える源氏物語の漫画の中で、最も有名な大和和紀氏の『あさきゆめみし』を見ると、一冊めの表紙には男性一人に女性六、七人が描かれている。このように源氏絵と言えば、光源氏と彼を取り巻く女君たちを描いた華麗な場面が想像されるであろう。そして、そこに登場する人物は男女いずれが多いかという点、先の表紙絵が物語るように、女性の方が多いと思いがちである。ところが中世・近世においては、そうとは限らないことを指摘し、その理由や時代背景をも探究してみたい。

一 国宝『源氏物語絵巻』と『紫式部日記絵巻』の比較

数多く描かれた源氏絵の中で、最も有名にして現存する最古の作品は、十二世紀前半に制作された国宝『源氏物語絵巻』(以下、国宝『源氏絵巻』と略称す)である。それと十三世紀前半に成立した『紫式部日記絵巻』(以下『紫日記絵巻』と称す)とを本章では取り上げ、四つの観点、すなわち比率・構図・身分・造形において比較分析を試みる。

1 男女の比率

この両作品に描かれた男女の数について、初めて言及されたのは源豊宗氏である。

源氏物語の十九段の絵のうち、「関屋」のみはむしろ風景画であって、人物が画面に有する効果は小さいからこれは別として、残りの十八図に描かれた人物九十三のうち、男二十四に対し女は六十九をかぞえる。紫式部日記絵巻の男六十二に対して女四十五であるのと興味ある対照をなすものである。ここにこの源氏絵巻と紫式部日記絵巻との表現の相違が見られるのである。(注1)

国宝『源氏絵巻』では女性、『紫日記絵巻』では男性が優勢という、男女比の逆転に注目されたのは卓見であるが、そ